

2020 年度第 2 四半期決算説明会における主要な質疑応答

| 質問 | 回答 |
|--|---|
| <p>Q1 : 航空宇宙システム事業の事業環境について、第 1 四半期以降の変化と第 3 四半期以降の見通しを教えてください。</p> | <p>A1 : 事業環境は第 1 四半期から大きな変化はなく、旅客需要は低調な状況が続いています。IATA（国際航空運送協会）の 9 月 29 日の発表によると 2020 年の年間世界航空旅客数は前年比 66%減と予測されており、7 月予測より 3 ポイント悪化しています。また、ボーイング社向け 787 分担製造品が月産 10 機から 6 機へ減産する時期が早まるなど、第 3 四半期以降も事業環境の大きな改善は難しいと料します。</p> |
| <p>Q2 : 航空宇宙システム事業の営業損益について、上期が 238 億円の赤字に対し、下期の見通しが 10 億程度の赤字にとどまる理由を教えてください。</p> | <p>A2 : 機体に関しては、上期には新型コロナウイルス感染拡大の影響によって当社工場が一時期操業停止に陥りましたが、下期には操業停止は想定されず、また、防衛省向けの売上が下期に大きく計上されることから、黒字転換する見込です。 ジェットエンジンに関しては、第 1 四半期に特殊な要因※で多額の赤字となりましたが、下期には同様の事象は発生しない見込みです。 ※詳細はリンク先 A1-①を参照 https://www.khi.co.jp/ir/pdf/qa_200820-1j.pdf</p> |
| <p>Q3 : 下期以降、他の事業で減損処理を実施する可能性はありますか。</p> | <p>A3 : 車両事業およびモーターサイクル&エンジン事業は営業損益が 2 期連続赤字となるため減損の兆候はありますが、新型コロナウイルス収束に係る一定の仮定に基づけば、今年度に減損処理が必要になることはないと思料しています。</p> |

2020年度第2四半期決算説明会における主要な質疑応答

| 質問 | 回答 |
|---|--|
| Q4 : モーターサイクル&エンジン事業について、米国向けオフロード二輪・四輪の需要の高まりは一時的なものか持続的なものか、どちらだと推測していますか。 | A4 : 新型コロナウイルス感染拡大による特需要因もあると推測していますが、オフロード二輪・四輪のキッズ向けモデルの販売も伸びを見せるなど新たな需要層も開拓できているため、来年度も高いレベルでの需要の持続を想定しています。 |

以上